

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎的な学力を定着させることが次年度への課題である。基礎的な学力の定着に向けては、今年度と同様に「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を継続して活用し、取り組んでいきたい。また、振り返りシートによって、学習内容を認知させることはもちろん、教科ごとにパフォーマンス課題を実施するなど、身につけた知識を活用することで知識の定着を図れるよう授業改善を行っていく。
思考・判断・表現	「解釈や説明」、「事象間の関連付け」といった思考力の向上が次年度への課題である。思考力の向上に向けては、今年度と同様に「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル」に取り組んでいきたい。自力、協働、練り上げ等の学習プロセスに応じた学習活動を各教科で精査し、他者との協働によって自分の考えを練り上げられるよう授業改善を行っていく。また、振り返りシート等を活用し、学習内容や自分の考えを文章化する活動を充実させていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況について偏りがみられる。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能について、反復練習をする時間を十分に確保できていない。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む。【火・水・金の朝に実施】振り返りシートを活用し、獲得した知識や技能を次の学習に活かせる場面を設定する。【単元ごとに実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学習内容や自分の考えを文章化することについて課題がみられる。 <指導上の課題> 学習内容や自分の考えを文章化する指導の時間を十分に確保できていない。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を意識し、自力、協働、練り上げのプロセスを学習活動に位置付ける。【学習内容ごとに実施】振り返りシートを活用し、授業で学習したことや感想などを記述する場面を設定する。【単元ごとに実施】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む時間を朝に継続して確保することができた。振り返りシートを活用し、獲得した知識や技能を次の学習に活かせる場面を設定することができた。
思考・判断・表現	B	「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル」として、自力、協働、練り上げ等の学習プロセスに応じた学習活動を各教科で実践した。振り返りシートは各教科で実施しており、学習したことや感想などを文章で記述することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R7年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R6年度の自校の結果と比較し、国語-10pt、数学-16ptであった。国語では全体として埼玉県や全国の平均正答率をやや上回る結果となった。数学、理科では全体として埼玉県や全国の平均正答率を下回る結果となった。数学では、既習事項を基に、さらに深く考える問題に課題がみられた。理科では「分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題」に課題がみられた。基礎的・基本的な内容の反復・習熟が学校全体の課題といえる。	
思考・判断・表現	R7年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R6年度の自校の結果と比較し、国語-10pt、数学-6ptであった。国語では「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題」、数学では「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題」、理科では「知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる問題」に課題がみられた。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R6年度の自校の結果と比較した結果、1学年は国語-1.4pt、数学-1.2pt、社会-2.1pt、理科-1ptであった。2学年は国語+2.4pt、数学+3.9pt、社会+2.8pt、理科+3.6ptであった。また、同一集団での経年比較により、2学年では数学、社会、理科の知識・技能について改善がみられた。どの教科においても、系統的でつながりのある内容について、既習事項を確認したり、繰り返し学習したりすることにより、さらなる定着を図っていく。	
思考・判断・表現	R6年度の自校の結果と比較した結果、1学年は国語-3.4pt、数学-1pt、社会2.4pt、理科-2.2ptであった。2学年は国語+2.7pt、数学+5pt、社会+2.3pt、理科+2.1ptであった。また、同一集団での経年比較により、2学年では数学の思考・判断・表現について改善がみられた。各教科の授業において、自分の考えを文章化する活動、自分の考えを発表する場面をより多く設定する必要があると考えられる。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	基礎的・基本的な内容の反復に取り組むことはできている。振り返りシートを活用し、獲得した知識や技能を次の学習に活かせる場面を設定することができている。	変更なし
思考・判断・表現	B	「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル」として、自力、協働、練り上げ等の学習プロセスに応じた学習活動を各教科で実践している。振り返りシートは各教科で実施しており、学習したことや感想などを文章で記述することができている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)